

研究課題： 口腔疾患とリウマチ性疾患の関連に関する研究

研究者名：高橋 克¹⁾ 浅井啓太¹⁾ 山崎 亨²⁾ 高橋 克¹⁾ 山口昭彦¹⁾

橋本求³⁾ 別所和久¹⁾

所属：¹⁾ 京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座口腔外科学分野

²⁾ 三重大学医学部附属病院 疫学センター

³⁾ 京都大学附属病院リウマチ疾患制御学

抄録

【目的】関節リウマチは、30 歳以上の人口の 1%が罹患するといわれており、治療も長期間に及ぶため、治療にかかる医療費なども問題となっている。歯周疾患が関節リウマチに与える影響について、われわれのグループは、歯周疾患の罹患が関節リウマチの増悪に影響を与える可能性があることを報告した。関節リウマチの治療は、症状の進行をコントロールすることが重要であり、歯周疾患治療や予防することにより、関節リウマチの進行を抑制する可能性が示唆された。これらのことから、関節リウマチ患者に対する口腔衛生管理は非常に重要である。しかし、関節リウマチ患者に対する口腔衛生の重要性については十分に認識されておらず、口腔衛生状態改善の有効性についての報告は少ない。

【方法】今回の研究デザインは横断研究とする。対象者の登録期間は 2015 年～2016 年の 1 年間である。対象者の選択は、当院リウマチセンターを受診された患者とする。

主たる結果となるリウマチの評価は、臨床的診断から関節リウマチのコントロールが良好、不良に分類する。曝露因子である口腔疾患の測定については、歯周病の評価として、プラークコントロールレコード (PCR) など口腔衛生に関わる要因を測定した。調整すべき曝露因子 (交絡因子) は、①年齢、性別、②生活習慣に関わる因子③口腔に関わる因子④全身疾患にかかる因子についてアンケート調査を実施した。

【結果】倫理委員会の承認を得るとともにデータの収集を開始した。3 月 31 日までの参加者は 22 人であり、男性 5 名、女性 17 名であった。PCR の平均は 44. 8%であり、アンケートの結果では歯ブラシ以外の補助器具を使用している人が歯間ブラシ 10 名、フロス 1 名、喫煙は 2 名、定期的な歯科受診が 8 名、口腔の渇きが 3 ヶ月以上持続しているが 2 名であった。

【結論】サンプル数は少ないが、口腔衛生状態や口腔に関連する生活習慣をさらに改善していく必要があると考えられた。本研究を継続しリウマチと歯周疾患に関するコホート研究を実施し、口腔衛生管理を行うことにより、口腔衛生状態の改善が関節リウマチのコントロールに有用であることを明らかにしていく予定である。